

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272200548		
法人名	株式会社ケイテン		
事業所名	島根県隠岐郡隠岐の島町栄町572		
所在地	グループホームさち1F 花		
自己評価作成日	令和3年9月13日	評価結果市町村受理日	令和3年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和3年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年々高齢になり、介護度も上がり重度化しています。なるべく寝たきりにならないように出来る限りポータブルトイレを使用し、おむつは控えて褥瘡、尿路感染防止に努めています。
自力で食事摂取が出来るよう筋力・知力の低下予防に努め、皆様が苦痛なく最後まで穏やかに暮らしていける様にしています。コミュニケーションの強化を最新の介護情報の収集などに力を入れています。
昨年度から、新型コロナウイルス流行に伴い施設内での行事・活動は自粛傾向にある。面会の制限も行い別室で個別対応を行うと共に感染対策にも力を入れている。必要に応じたタブレットを活用したりリモート面会も行える環境を整えた。

「敬天愛人」をホームの基本理念として掲げ、「人としての尊厳を大切に、慈愛に満ちた、安堵の暮らし」の実践に取り組んでいる。代表者や管理者、職員は、常に利用者に寄り添い、傾聴し、その人らしい生活が継続できるように支援している。コロナ禍でホームで過ごす時間が多くなっているが、日頃から利用者の下肢筋力保持運動を体操やレクリエーションにとり入れたり、毎月行事を計画し、利用者に元気に楽しんでもらうよう工夫している。近年の「想定外や未曾有の災害」に備えて十分な備蓄品や食料品等の確保に努め、日々、コンセント等の掃除をこまめに行い火災予防に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	慈愛に満ちた安堵な暮らしの理念は安心して穏やかに生活できるように、職員一同念頭にいれながらその人にとって何が一番よいケアかを考えて業務にとりこんでいる。	各ユニット共に月1回のケア会議で、利用者が「慈愛に満ちた、安堵の暮らし」ができる為にはどうしたらいいか話し合い、理念を共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス流行に伴い自主規制を敷いており、積極的な活動・地域との繋がりを持たぬように制限を行っている。	今年度はコロナ禍で予定していた行事等中止となり、地域との繋がりや近隣住民とふれあうことはほとんどできなかった。開設時からの自治会の溝掃除は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス流行に伴い自主規制を敷いており、積極的な活動・地域との繋がりを持たぬように制限を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当施設や入居者の状況を報告し、意見や助言を頂きサービスに活かしている。 新型コロナウイルス流行に伴う中断もあったが、文書により意見聴取を行った。	町の担当者の助言で第3回目より書面会議となった。各ユニットの利用者の現況や活動など報告し、情報共有に努めている。ヒヤリハットについて意見や助言を得、事故防止に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターに主催による地域連絡会が2か月に1回開かれ、各施設の代表が集まり意見交換している。	運営推進会議や地域連絡会で情報交換し協力して取り組んでいる。コロナワクチン接種時は、担当者に手伝ってもらいスムーズに実施できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアを送っている。	毎月のケア会議で拘束の「有・無」の確認をし、話し合い職員間で共有に努めている。日頃から気になる事は職員間で注意し合い、互いに拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から虐待について話し合いを行い、職員同士注意し合えるよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に研修に参加はさせていただいたが、今まで権利擁護の対象ならぬ方はおられず、活用の機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には、契約書、重要事項説明書に基づき説明している。また家族、本人には事前に見学して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが1度も投書がないが、ご家族が来られた時にはご意見、要望を伺い反映させている。	面会時や、来訪時、電話などで様子を伝え、意見や要望を聞いている。面会を希望される家族が多く、別棟で一組づつ短時間の面会や島外の人との窓越しの面会、タブレット端末利用でリモート面会を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	幹部会を開いて、管理者が職員の要望や意見を聞き代表に伝え反映させている。	管理者は、職員が意見や提案、相談事など言いやすいように雰囲気づくりに努め、意見を幹部に伝えている。2Fでは、非常階段を窓越し面会ができるように改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回人事考課があり、自己評価に基づいた個人の努力や課題を明確にし、意欲を引き出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ積極的に研修に参加してもらっている。受講後は研修の資料とレポートの回覧をするなどして研修内容の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修会で他の施設との意見交換をしている。 また年に4～5回グループホームを開いて意見交換をしている。今年は新型コロナの影響でグループホーム会は7月に1回行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にはこちらの方から面接に伺い、生活歴、生活習慣、嗜好、また本人から話を伺って、それに沿ったケアを心がけながらホームに馴染んで頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新型コロナウイルス流行に伴い、事前の見学はお断りしているが、必要な情報交換の場を設ける・電話にて対応をする等して不安の軽減・関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の相談内容をよく聞き本人、家族にとって何が必要なのかを一緒に話し合いその時何が必要としている事を早急に支援できるようにしている。必要に応じて他のサービスや機関への連帯も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝は掃除、体操から始まり、ご利用者それぞれ出来る事をして頂き、洗濯たたみ、買い物、散歩等、職員と共に生活を送り、助け合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を把握して面会に来られた時家族に必ずホームでの様子、病院受診の状況をお伝えし情報の共有に努めている。また遠方におられる家族には、電話等生活状況をお伝えし安心して頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス流行に伴い、基本的には外出・外泊を制限。面会も、1組ずつ短時間に制限を行っている。その時の状況で判断していて、家族による電話予約していただいている。	コロナ禍で外部との接触を控えている中で、利用者の自宅近くまでドライブしたり、窓越しの面会や、短時間の面会、タブレット端末使用、携帯電話で話す等、馴染みの人との関係継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入所者一人ひとりの性格や生活行動を観察しながら入所者同士が関わり合えるように馴染みの関係づくり気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や入院された後も、面会に行きたり病状を尋ねるなど常に関わりご家族の相談や支援体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴、好み、習慣、「出来る事・出来ない事」を全職員が把握している。また意思表示が困難な場合は、常に声掛けるようにしている。	日々の関わりの中で傾聴に努め、利用者の些細な変化に気づいた時は日誌に残し、申し送りノートで情報を共有している。利用者の「ここで最後を送りたい」との思いはプランに反映させ支援した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご利用者、ご家族の方にこれまでの暮らしについて伺って、入所後も少しずつ情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の生活状況を観察し、見極め現状を把握し支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月1回ケア会議を開催しケアマネ、スタッフで意見交換し課題を見つけてプランにいかしている。	毎月ケア会議を開催し、家族からの情報を基に話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めている。趣味のパズルやぬり絵を取り入れ支援するなど、意向や希望を反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は個々に記載してそれに基づいて、支援の方向性の確認をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望により行きつけの理美容院へ出かけたり、ご自分の家までドライブに行かれたり、外出や外泊ご家族がホームで一緒に泊まれる環境は整えていたが、自粛・制限を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校・図書館との連携・交流も今年度は感染対策として自粛して行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も以前からのかかりつけ医にそのまま受診している。一人ひとり受診状況を明記し、利用者の状態、病状等についての情報共有できるようにしてる。	月1回、かかりつけ医の訪問診療がある。専門医の受診には職員が同行し、「受診記録」「申し送りノート」で職員間の情報共有ができるようにしている。家族には電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護師に連絡が取れるようになっている。各階に2名ずつ配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院・家族との連携・必要な協議を行い、早期退院・受入れを行う様努めている。退院時は情報の共有を病院と行い、退院時には医療的な指導等必要に応じて受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に重度化した時、終末に向けた方針を事業所ができることを十分に説明して状況変化に応じて話し合いの機会を作りその都度意志を確認している。往診してくれない病院から町の開業医へ変更して終末ケアに取り組んでいる。	早い時期から利用者や家族の思いを聞き、関係者と話し合いながら、医師や家族などの協力を得て今年度、3名の看取りを支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	十六夜会を開いていて、1階2階と勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に毎年訓練を実施し、対策を講じている。今年は6月16日に行った。	年間計画を立て、避難訓練や消火訓練を行った。消火訓練は密を避け、近くの山で職員一人ひとりが確実に消火できるように消火器の使い方などの訓練を行った。職員は訓練後必ず反省会で振り返りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日々一人ひとりを尊重した言葉がけに心がけている。職員同士がお互いに注意し合えるようにしている。	人生の先輩として敬う気持ちで接し、なれなれしい呼び方や命令口調にならないよう気をつけて対応している。入浴や排泄介助、居室内での対応はドアを閉め、声の大きさも周囲に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に日頃から食べ物、飲み物を聞いて自己決定出来ない人も職員がすでに把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のスケジュールは、決めていなくてその日の天候や利用者の体調を考慮して買い物、レク、など ご利用者の希望も取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やその日の気分に合わせて洋服の選択など各自自由にされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかご利用者に聞き、食事の提供も行っている。特に誕生日の方がおられると本人に食べたい物をお聞きしている。	各ユニット毎に食事作りをしている。おやつ作りや下準備、台拭きなど利用者の力が活かせるように支援している。誕生日や行事には希望のメニューを提供し食事が楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者に応じて刻み、トロミ食を提供して、一人ひとり食事、水分量も職員が把握して、食が進まない片のは別メニューで好みの物を提供して低栄養にならないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯、一部歯、自歯、歯のない人さまざまな方がおられそれぞれ合った口腔ケアを丁寧に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者それぞれ排尿パターンをつかんでトイレ誘導している。入所前には紙パンツだったが布パンツになった方がいる。また、介護度5の寝たきりのご利用者の方にも、オムツを使わなくて決められた時間ごとにトイレ誘導している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛けしトイレ誘導を行っている。トイレの場所がわかるように大きな張り紙をしたり、誘導時間を置いたり、対応する職員を交代してトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手づくりのカスピ海ヨーグルトを毎日食べてもらっている。運動したり便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者皆さん入浴を楽しみしておられ、入所前にお風呂が嫌いな方もゆったりとした雰囲気がよく、湯かげんも個々に合わせている。	利用者の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。自分の好みのシャンプーや石鹸を使い入浴を楽しんでいる利用者もいる。2Fでは入浴できない利用者には足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の取り方は、利用者に任せていて、なるべくホールで皆さんで過ごすようにして、夜安心して眠れるようにしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は誰でも見られるようにファイルに入れてある。医療面での経過記録を作成しており、誰が受診しても流れが分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事のメニュー書き、洗濯干し、畳み、新聞を読んだり、新聞紙でゴミ箱を作成したりと、コロナの影響で室内中心の活動が多くなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響で、自粛しています。天気が良ければ、裏庭で2階の利用者とお茶をしています。	コロナ禍で自宅への外出や外泊はできないが、ドライブで自宅付近や水鳥公園、遠足に出かけたり、合同で花見に出かけたりして季節を感じられるよう支援している。天気の良い時は裏庭でお茶会を開いて楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は持っておられないが、希望の応じて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や島外におられる兄弟の電話の取次ぎや希望によりこちらからも電話をかけている。タブレット導入により、リモートでの面会・交流の機会も提供できる様になった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節による花を飾ったり、壁には作品、行事の写真でその時を思い出してもらっている。居室や、トイレの臭気は特に気をつけている。	季節感が感じられるよう食卓に花を活けたり、壁には季節毎に利用者と一緒に作った折り紙や写真、利用者の塗り絵を飾っている。廊下にソファを設置し利用者が自由に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室に、廊下やフロアにもソファがあり、その時々により座る場所をかえている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家で使っていた馴染みの物を持って来てもらうようお願いしている。面会時に記念写真を撮って家族とのつながりを感じてもらっている。トイレ、居室がわからない人も大きくわかりやすくしている。	写真や位牌、タブレット端末、携帯電話などを持参し家族と会話したり、読書、塗り絵等して過ごしている。転倒防止の為に、利用者に合わせて家具の配置をし、安全に暮らせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止のためすべり止めマットを使用椅子やテーブルは本人の座高に合わせて高さを調節している。		